

りながさせしとぞ、後に人々傳へ聞きて、その風流を稱しけるとなん。

〔古今吉原大全〕^四吉原年中行事

八月十四日十五日十六日月見にて、^{○中}又なじみの客へ月見杯をおくる故實なり。

吉原名産

月見杯は寶永の比、角山口の太夫香久山かたへ、京都島原の女郎瓜生野といへるが、客の縁によりて、文を遣しける時、銀にてきせるをこしらへ、火皿をつめておくりこしければ、かく山返事をつかはす節、大さかづきのいとぞこなく、ころく^くとせし杯をあつらへ、おきまとわするといふ心にて、玄ら菊と銘をつけ、京都へおくりけり、其比此ひやうばん高かりし、ころは八月十五日にてありしかば、其已後月見に客へ盃をおくる事になりぬ、是より前は女郎より月見のおくり物はなつめに引茶をいれておくりし事とぞ。

盃貢進

〔儀式〕^四踐祚大嘗祭儀

太政官符諸國^{每國有符}應造新器

河内國^{○中}御酒杯八口^{○中}已上御料^{○中} 備前國^{○中}蓋十二口^{○中}已上人給料

〔延喜式〕^五齋宮供新嘗料^{ト八男}

酒蓋十口^{○中}略^{已上美濃國充之}右主神司并膳部所請

〔延喜式〕^七踐祚大嘗祭凡應供神御雜器者^{○中}河内國所造^{○中}酒蓋八口、蓋廿口^{○中}尾張國所造^{○中}略

酒蓋十二口^{○中}略^{備前國所造}酒蓋卅口

〔延喜式〕^三凡太宰府年料造進^{○中}朱漆^{○中}蓋二百五十口^{百五十口徑五寸、百口徑四寸五分、○中}略

右以正稅充料造進^{○中}

年料雜器